

## 始めよう、新しい未来への歩み

また、週1回、集会所を開放する日を設け、一人で家にこもっている人に声をかけて、気楽に集まってもらおう場所づくりもしています。こうした活動が、上水谷と下水谷の交流や共同した農作業につながってきたと感じているそうです。

6、**もんぜん市**：毎週水曜、土曜に開かれる多賀の朝市に、地元の野菜を出荷して、こずかい程度ですが、収入を得てもらおうようにしているそうです。

7、**水谷通信**：月1回発行の情報誌で、地域おこし協力隊が編集し全員に配布しています。

8、**情報発信**：Facebook、Twitter で村の情報を発信しています。<http://www.suidani.net/>

谷さんからみた水谷は、谷間から見える山なみが美しい、家のそばに梅の木、柿の木、お茶の木があって、特にお茶を加工して飲むことは初めて体験したとのことでした。また、おばあちゃんたちが作る「よもぎ餅」は、よもぎの香りと餡の甘さでとてもおいしいとのことでした。

中山間地域での「地域づくり」を応援する人材には、専門家と非専門家が必要です。



地域おこし協力隊は、若者が中心で経験も浅いのです

が、こつこつと愚痴や悩み、小さな希望を聞き、高齢者の生活の技に驚愕したり、一緒に「小さな成功体験」を味わうことで、「ここで生きてよかった、これからもがんばりたい」と思う前向きの気持ちをはぐくむ「寄り添い」型支援が期待されています。



谷さんは、自然にそれが出来ていると感じました。3年もたてば、水谷だけでなく周りの集落も含めて「人と地域資源」を最もよく知る人になるでしょう。専門家が活きるのはそれからです。

日本の各地では、次の段階にむけて「広域コミュニティづくり」や「小さな拠点づくり」の取り組み、生活や福祉・医療、産業、防災などの問題解決に向けて専門家や大学、都市と地域をつなぎ、具体的なプロジェクトを運営していく「地域(エリア)マネージャー」の設置が始まっています。



多賀町は、滋賀県内では最も速く人口減少と高齢化が進むと予想されている先進地の一つです。新しい未来への歩みは、もう始まっているのです。

## NPO法人・彦根景観フォーラム 入会のご案内

彦根景観フォーラムは、まちづくりを楽しむNPOです。大学教員、建築家、市民、商店主、公務員などが集まり、知恵と力を合わせて活動しています。詳しくは事務局まで。

● **ブログ** <http://hikone-keikan.seesaa.net/>

● **定例会** 毎月第3金曜日 午後7時～9時 滋賀大学陵水会館 誰でも自由に参加できます。

● **お問合せ**：彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968 FAX 0749-27-1431

E-mail: [hikonekeikan@hotmail.com](mailto:hikonekeikan@hotmail.com) まで



# きらっと彦根 vol. 41

彦根の魅力 ★ 再発見

彦根まちづくり誌 2015年10月15日 通巻41号 編集/発行 NPO法人 彦根景観フォーラム

## 彦根景観シンポジウム 2015

### 鎌倉に学ぶ・古い佇まいを 活かした新しいまちづくり

10月25日(日) 13:00~15:30

最新の地域ブランド調査によると、鎌倉は魅力度で全国8位に入っています。人々を惹きつけるのは、有名な文化財だけでなく、文人や映画人が愛した生垣のつづく路地、古民家、庭先などの「まちの佇(ただず)まい」と、ゆったりとした時間を感じさせる民家カフェ、隠れ家レストラン、手作り工房とそこに生きる人の暮らし方です。

彦根も、古い「佇まい」をもっています。それをどう磨き、どう生かすか。鎌倉の皆さんと一緒に話し合しましょう。

#### 講演 ①：鎌倉の景観まちづくり

講師：梅沢典雄さん(ひと・まち・ネットワーク 鎌倉理事、建築家)

#### 講演 ②：鎌倉から学ぶ彦根のまちづくり

講師：山崎一真さん(一般社団法人 鎌倉・湘南景観フォーラム代表理事)

会場：四番町ダイニング3F多目的ホール  
(彦根市本町一丁目7-34)



同時開催  
彦根市指定文化財 足軽屋敷特別公開  
10月24日(土)・25日(日)

## 登録有形文化財になった

### 多賀里の駅・一圓屋敷

平成27年10月3日、多賀里の駅・一圓屋敷で国登録有形文化財であることを示すプレートの取り付けと登録証の交付式がありました。



プレートは、表門の脇に取り付けられ誰にでもわかるようになっています。登録証は、久保多賀町長から濱崎彦根景観フォーラム理事長・滋賀県立大学教授に手渡されました。久保町長は、一圓屋敷の7年にわたる活動を高く評価されるとともに、人口減少や地域産業の課題に触れられ、ここを拠点に新しい地域づくり運動が広く展開されることを期待し、支援したいと述べられました。

この後、座敷で濱崎理事長が講演され、登録文化財に指定された主屋、文庫蔵、米蔵、雑蔵・木蔵についての特徴や建築年代、茅葺きから棧瓦葺きへ改修された痕跡などを解説されました。



特集 多賀里の駅・一圓屋敷の取り組みから

多賀らしい景観と地域づくりを考えよう